

事項	トルコギキョウにおける褐色根腐病の特徴		
ねらい	平成23年に県内のトルコギキョウで根腐症状を示す株が持ち込まれた。病原を調査した結果、新病害である「トルコギキョウ褐色根腐病」によるものであることが明らかとなったので、その特徴を示し、診断と防除対策上の参考に供する。		
指導内容	<p>1 発生状況 発生地点：津軽地域6地点6農家圃場 作型：無加温ハウス栽培（10月下旬～11月中旬定植、4月上旬～5月中旬定植） 時期：4月中旬～7月下旬頃 品種：「まほろばピンクフラッシュ」「雪ぼたん」「海ほのか」他5品種 発生割合：30～100%</p> <p>2 病徴 地上部は草丈が低く全体的に小さくなり、下葉からの黄化や枯れ上がりがみられ、幼植物では枯死する場合もある。地下部は根量が少なく、根に褐変が認められる。重症株では細根がほとんど無くなり、主根の表面がコルク状になる。症状は青かび根腐病に類似し、外観だけでの識別は困難であるが、越冬栽培のように低温期間が長くなる作型では、本病による被害の可能性が高い。</p> <p>3 病原菌 病斑部から分離した菌について、培養菌糸による土壌接種、分生子殻等形態の観察、遺伝子塩基配列の比較を行った結果、病原菌は<i>Subplenodomus drobnjacensis</i>と同定された。新病名として「トルコギキョウ褐色根腐病」を提案している。この菌は土壌伝染性の病原菌であるため、被害植物残渣とともに土壌中に残り、寄主植物の栽培にもなつて胞子が発芽し、根部から感染する。</p> <p>4 防除対策 （1）被害株は早急に抜き取り、作物を植えない場所に埋める等適正に処分する。 （2）連作を避ける。 （3）機械作業等による汚染土壌の移動を防ぐ。 （4）発病圃場で使用した資材は、廃棄するか丁寧に土を洗い落とす。</p>		
期待される効果	トルコギキョウにおける根腐症状の原因と特徴を明らかにすることにより、早期発見が可能となり、被害拡大を防止することができる。		
利用上の注意事項			
問い合わせ先 (電話番号)	農林総合研究所 病虫部 (0172-52-4314)	対象地域	県下全域
発表文献等	平成23～24年度 試験成績概要集（農林総合研究所） 平成25年度 第66回北日本病害虫研究会		

【根拠となった主要な試験結果】



健全株



発病株

写真1 トルコギキョウ褐色根腐病発病株 (平成24年4月19日撮影)



写真2 トルコギキョウ褐色根腐病
発病株 (平成24年4月19日撮影)



根の褐変症状



主根のコルク化症状

写真3 トルコギキョウ地下部の症状 (平成24年4月20日撮影)

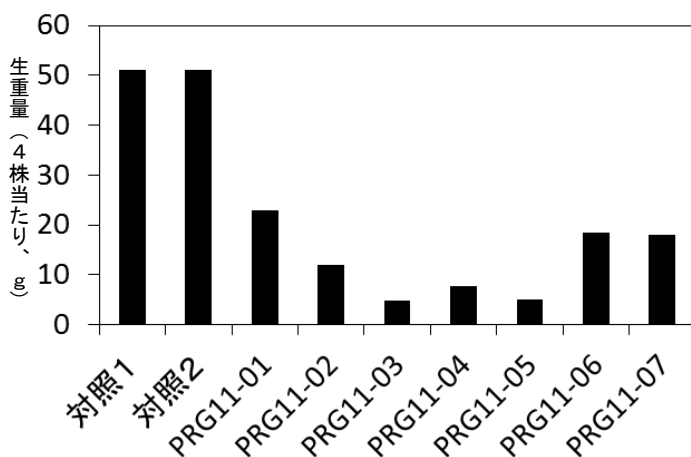


図1 分離菌を接種したトルコギキョウの生重量 (培養菌糸による土壌接種後60日目) (平成23年 青森農林総研)